

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4370300727
法人名	社会福祉法人 仁和会
事業所名	グループホーム 聖心園
訪問調査日	平成 21 年 3 月 12 日
評価確定日	平成 21 年 4 月 24 日
評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 4月 18日

【評価実施概要】

事業所番号	4370300727
法人名	社会福祉法人 仁和会
事業所名	グループホーム 聖心園
所在地	熊本県人吉市南町8番地1 (電話) 0966-22-7807

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市南熊本3-13-12 サウス清香205		
訪問調査日	平成21年3月12日	評価確定日	平成21年4月24日

【情報提供票より】(21年 2 月10 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 3 月 25 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤	7 人, 非常勤 人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	150 円	昼食 350 円
	夕食	300 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(2月 10日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	0 名	要介護2	3 名		
要介護3	1 名	要介護4	5 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.3 歳	最低	78 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	岡医院 ・御手洗歯科医院・介護老人保健施設愛生
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

山や川に囲まれた自然豊かな地で、歴史を持つ母体施設の恩恵を受け継ぎ、慈愛に満ちた精神がホーム運営に活かされ入居者一人ひとりの尊厳を重んじたケアに努めている。リビングから流れてくる入居者と職員の歌声・笑い声・時には入居者の要望の声と、飾らないお互いの関係が構築されている。職員間のチームワークの良さは、細かな気遣いとなって表れ、家族にとって訪れやすく信頼の厚さに繋がり、共に入居者を支えている。法人代表者も頻りにホームを訪れ、入居者との会話を大切にしている。別棟会議室の地域開放を通じ交流の場として地域貢献に活かされる事が期待される。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価を受け入居者の体調に配慮しながら、地域行事への参加の継続や、家族の安心に繋げる近況報告の見直し、運営推進会議以外での市との連携として入居者と一緒に外出を兼ね書類提出に向くなど改善・努力された事が確認できた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は管理者より記入方法と、ホームは入居者本人・家族を大切にしているか?を心に留め記入することの説明を行い全職員・全項目を取り組み最終的に管理者がまとめあげた。
重点項目③	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	定期的開催されている会議では毎回有意義な意見交換が行われている。グループホームと小規模多機能施設の違いや役割、制度関係の話も行なわれ、施設の安全面として次年度スプリンクラー設置予定の説明がなされ参加者の安心となった。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	面会時を家族のコミュニケーションの場として大切に捉えている。玄関の意見箱の設置や公的機関の連絡先も表示している。今回の外部評価を家族の要望を受け取る機会とし、出された意見・要望に対しては早急に対応していく意向である。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	地元の幼稚園・小学校の運動会や地域の祭り等できるだけ入居者と一緒に参加し、地元の方々との交流を行なっているが、高齢化に伴い地域に出かける機会が少なくなっている。今後は地域の方々気軽に足を運べるような機会や、場所提供による交流が期待される。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	慈愛に満ちた法人の精神を受け継ぎ、ホーム独自の理念を全職員で話し合い作成した理念であり、地域密着型サービスとして確立している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を職員の目に付く場所に掲示し日々の規範としている。毎年努力目標を掲げ、理念を具現化し身近に取り組みやすいものとしている。ミーティングやケアの中で理念の実践についての話し合いの場を持ち全員が共有している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元の幼稚園や小学校の運動会に入居者と共に参加したり、観音様参りや地域の大祭に参加し交流を図っている。散歩や買い物時に近隣の方々と顔を合わせ会話をしたり野菜などのやり取りが行われているが、高齢化に伴い入居者全員では地域に出る機会が少なくなってきた。	○	今後は運営推進会議などを通じ地域の方々が気軽に足を運べる様な機会や場所提供の検討を期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価はひと月をかけ管理者より記入方法を説明し、全職員・全項目について取り組み最終的に管理者がまとめあげた。前回の評価を受け入居者の体調に配慮しながら、地域行事への参加の継続や、家族の安心に繋げる近況報告の見直し、運営推進会議以外での市との連携として入居者と一緒に外出を兼ね書類提出に出向くなど改善・努力された事が確認できた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催される会議では、ホームでの入居者の暮らしぶりや活動報告を行い、その後参加者との意見交換の場を設けている。参加者より認知症やグループホーム・小規模多機能施設との違いや制度関係の話も行われ、施設の安全の中でスプリンクラー設置についてホームも次年度設置予定であることを報告し参加者の安心へとつなげている。消防団関係者の参加を希望しているが実現には至っていない。	○	今後は参加家族が固定化しない為に全家族への呼びかけと、参加していない家族へ議事録を送付する事で共有されることを期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者の運営推進会議への参加や電話でのやり取りを通じ情報収集を図っている。ホーム側からも入居者と共に市役所を訪れ書類提出などを行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	広報誌“みこころ”で入居者の暮らしぶりを紹介し、面会時に近況を報告している。遠方の家族へは電話での報告や、写真と共に管理者が手紙で伝え、異動については広報誌で報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時を家族コミュニケーションの場として大切に捉え、話しやすい雰囲気作りに努めている。玄関の意見箱の設置や公的機関の連絡先も表示している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	この一年離職はなく異動についても最小限の人数に留め、入居者の精神的不安にならないよう十分配慮している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月母体主催の研修会や外部研修に参加し、ホーム内復講により共有化を図っている。資格習得にも管理者がアドバイスしたり、母体施設職員の実技指導等の協力が得られている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の活動を通じお互いのホームの状況を話しあったり、情報交換の場としサービス向上に繋げている。現在のところ計画的な相互訪問の実践にまでは至っていない。	○	今後は同業者の交流の機会の一環として、職員の希望も取り入れた相互訪問の実践を期待したい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居者の事前情報を職員間で共有し、入居者の生活がスムーズに行えるよう支援している。まずは顔を覚えてもらうことからはじめ、本人や家族の思いをしっかり受け止めゆっくり慣れてもらうように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者に尊厳を持って接しそれぞれが過ごしやすい雰囲気や環境づくりに努めている。入居者の得意とする餅つきや干し柿作り、高菜づけなど昔ながらの作業を先人の知恵を借りながら共に行い、喜びを分かちあっている。入居者のエレクトーン伴奏にあわせ大きな声がリビングに響き和やかな一日のスタートとなっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話で本人の思いを把握し、意志表示の困難な入居者へは家族の情報や表情・しぐさから推測し、本人の意向に沿える様連携をとりながら支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎日のケア会議で入居者の現状把握を行ない、入居者の希望を踏まえ家族と話し合いを持ちながらプランを作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的及び随時見直しを行い、入居者の現状に即したプランになっているかを計画担当者は入居者の担当職員と共に現況把握に努めている。入居三ヶ月で最初のモニタリングを行い、現状に即したプランを作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	理美容支援や買物支援等柔軟に対応している。又、法人の大型車の借用や緊急時にはグループホームをよく知っている母体職員の応援も得ることができている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隣の協力医院をかかりつけ医としている入居者が殆どであるが、以前からのかかりつけ医をそのまま継続している入居者もあり、定期的な往診が行われている。他科受診についても対応している。		
		○重度化や終末期に向けた方針の共有			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19	47	重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化や終末期について説明を行い、家族との会話の中で終末期について出された内容は記録に残している。重度化した場合や終末期については法人理事が囑託医である事から、医・介護の連携をとり、できる事を見極め対応したいとしている。今後も終末期の対応についての研修を続けていく意向である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者に応じた呼称や言葉かけを行なっている。プライバシーの保護や個人情報保護に関しても管理者は常に、勉強会や日々のミーティングにて話をし徹底に努め、重要な書類は事務所にて保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の大まかな流れはあるものの、個別援助を基本とし生活歴等の情報を把握し、個々に応じた楽しみごとの支援に努めている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の準備や後片付け等できることを一緒に行っている。行事食や誕生日の希望メニュー食支援など入居者の楽しみとなっている。職員も同じ時間に同じものを食する事で入居者の体調や好みを確認している。		
		○入浴を楽しむことができる支援			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
23	57	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の希望に応じ毎日入浴ができるよう準備し支援している。身体機能低下の入居者には職員が2名で対応し、どんな状態においての浴槽に入り、気持ちよく感じてもらうよう支援している。日中の入浴に「こんな時間にもったいなか〜！」と話される入居者の姿に、職員は学ぶことが多いと管理者は話された。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	〇役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみやモップかけ等の家事やエレクーン伴奏・居室に置かれた木彫り作品の管理など個々に応じた役割や楽しみ事を支援している。法人の大型車を借りて生まれ育った土地や知人宅訪問など入居者のこれまでを大切に支援を行っている。		
25	61	〇日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や体調に応じ近隣の散歩や食材の購入に出かけている。今後も個々の健康状態に配慮しながら無理のない外出支援を行う意向である。	○	今後は高齢化や重度化に伴い、日常的な外出支援も困難になっていくと思われる。これまで同様敷地内の散歩やデッキでの外気浴などにより気分転換に繋げていく事を期待する。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	〇鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	自由な出入りや鍵をかけることの弊害は全職員認識し玄関の施錠は行っていないが、門扉は交通量に配慮して閉じている。不穏や外出したい入居者へも職員の気づきにより見守りや寄り添いで一緒に敷地内を散歩するなど自由な生活を支援している。		
27	71	〇災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	月一回の自主訓練を職員の担当制として実施し、災害に備え法人施設に非常食や水分を確保している。有事の際の近隣の方々への協力要請には至っていない。	○	法人の協力体制と併せ、日頃より地域の方々との協力を得る働きかけを行い、入居者の安全・安心に繋げていただきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
		〇栄養摂取や水分確保の支援	三食事やおやつ時等必要に応じた声かけにより水分		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	確保を行っている。キザミや食べやすい量にカットしたりお粥など、個々に応じた対応である。摂取量は全員、水分は必要な時、必要な方のみ記録に残し健康管理を行っている。排泄への対応としてヨーグルトを多くメニューに取り入れている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく広いリビングルームの窓からは、季節の花や鳥のさえずりを耳にする事ができ和やかな雰囲気である。エレクtoon演奏を楽しんだり、新聞を読まれる方、ソファでゆっくり寛ぐ方など一日の大半を過ごすホールは清潔に保たれている。今後も入居者の状態に応じた共用空間づくりに努る意向である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力を得ながら、本人の身体機能やこれまでの趣味・思いを大切にした居室づくりを行っている。居室の換気やエアコンの温度調整など個々に応じて対応し居心地のよい居室に繋げている。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム聖心園
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	熊本県人吉市
記入者名 (管理者)	眞弓 和子
記入日	平成 21 年 2 月 1 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	○	家族の各行事や誕生会などの参加機会を持つことで、理念を理解してもらう。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	重度化に伴い交流の機会が少なくなった方がいるが、ホームの立地条件を活かして、地域との交流をはかる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	民生委員やシルバーヘルパーの研修熊本県職員研修などの受入れをした。施設見学はいつでも受け入れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	スタッフは自己評価の項目により制度を理解しケアの視点として捉えケアの見直しを図っている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月ごとの会議の中で、活動状況、施設の現状報告をしている。評価については、評価結果を報告、改善の工夫、これからの活動などに生かしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者は運営推進会議のメンバーであり、又本体施設との関係も深く、お互いに情報交換できている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業を受けておられる利用者がおられ、成年後見人制度についても、学んでいる。地域の学習会に参加の機会を持ったがスタッフ間で知識の差が見られる。	○	利用者と社協の権利擁護事業の関わりを通じて、情報を得ていく
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体で、虐待防止関連法について学び、虐待防止についての意識が高い。報道よりの回覧を通して、又各委員会の活動の中でも取り上げて考える機会を持っており、虐待はない	○	高齢者虐待防止のための事例集を利用して防止策、対応策を考える

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しての説明は、疑問、不安をもたれないようにわかりやすく説明している。又疑問不安を言っただけのような雰囲気場にはしている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常生活の中でも随時意見を取り上げている。ケア会議前には改めて意見、希望、不満を聞くようにしている。意見箱を玄関において投函できるようにしている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりは定期的に発刊される広報「みこころ」に掲載している。遠方に居られる家族には電話で報告したり、郵便物と共に写真や手紙で報告している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来園時に気軽に意見を言えるような雰囲気を大切にしているスタッフより意見を求め、貴重なものとして受け止めるようにしている。玄関の意見箱の利用や、公的機関の利用を紹介している。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の中で自由に意見や提案を言う機会を持っている。意見や提案は皆で考え、実行につなげている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	家族、利用者の状況の変化、要望については母体施設と相談でき応援、協力を得られている。、勤務の調整、職員確保について話し合いが出来る。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	必要最小限の人事異動をしているが、人事異動時は法人で会議のうえ選任している。認知症研修を園内研修として取り上げ、異動時の利用者へのダメージへの配慮をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体施設の職員研修計画の中で育成している。グループホーム連絡会主催の研修や認知症関連の研修についても機会を多く持っている。資格取得についても、推進している。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	人吉球磨グループホーム連絡会での活動を通じて、交流、勉強会をしている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	一人ひとりが気軽に考えを言えるような職場環境を大切にし、健康状態や疲れ、ストレスなどへの配慮している。職員旅行を計画し法人スタッフとの交流親睦を図っている。	○	休憩時間が取れるように話し合いをし、工夫しているが利用者の重度化によりストレスも多い。休憩時間の確保を考える。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	努力、実績、勤務状態を把握しており、資格取得に向けて、情報提供や、勤務調整などを行い支援している。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	各事業所よりの情報や家族よりの情報を得ながら、利用前に本人と会って話を聞いている。本人の表情や行動より、不安や困り事を察知し、受け止め、安心して利用されるように、信頼関係を築く努力をしている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用にいたるまでの家族の苦労を察知しながら話を伺っている。スタッフは面会時に話をする機会を多く持つようになっている。その中で見えてくる疑問や問題点はがあれば、早い段階で話し合いの場を持っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人施設の各事業所より、話し合いの場を持ち、情報や意見も得らる。必要としている支援を、他のサービス利用を含めて考えている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	各職員も利用前に、本人と会い、会話するようにしている。ご本人の環境変化に対しての不安を減らせるように、本人、家族の考えを聞く事からはじめ、相談し工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の中で、助け合う事、支えあう生活を大切にしており、能力を発揮できる場を提供している。		洗濯物たたみ、食事の盛り付け、買い物、歌の伴奏などそれぞれが小さな役割を持たれている。餅つき、つるし柿づくり、外作業などでの、知恵を貰った。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族とのコミュニケーションを努力目標にあげながら、本人の日頃の様子を伝え、共に相談し合って支えている。	○	日常の生活の報告の中で本人の能力を知ってもらっている。外出外泊が楽しめるように支援していく。誕生日や花見など一緒に過ごして下さっている事を大切に、していく。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族が良い関係であるように、面会時に同席し双方の気持ちを大切にしながら話しを伺い双方の理解に努めている。		情報を皆で共有できるように、家族の協力を得ながら、これまでの暮らしの履歴をセンター方式で記載している。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	談話の中で思い出を語っていただいたり、馴染みの美容室を利用していただいている。、又買い物帰りに、馴染みの場所に立ち寄りたりしている。今年は、ふるさと巡りをし、馴染みの方々に会う事が出来た。	○	ふるさと巡りの継続。美容室の利用が継続できるようにする。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	相性を考えながら、テーブル、ソファ、座敷の利用している。孤立しないように、談話の中に加わられるように場をつくっている。交代で本の読み聞かせや歌を歌われている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	継続的な関わりを必要とされる方は居られないが、退所者家族は立ち寄ってくださり、時には作物や花をもってこられる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	折に触れ、希望を聞いている。家族よりも情報を得ながら本人の思いに沿うように会議の中でも検討している。	○	推測される本人の思いは家族に伝え、共に確認しながら暮らしを支えていくようにする。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、面会者、本人などからの情報をセンター方式を利用して取りまとめ、把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	各シフトでの口頭での引き継ぎ、経過記録、ミーティングノートで現状把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の思いを中心にケア会議を行い課題とケアのあり方を話し合っている。家族にも意見を求めて、介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて見直しをしている。変化が生じた場合や入所3ヶ月後は、プランの見直し、現状に即した計画を作成している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は、ケアの実践記録。情報源として各スタッフは意識して記入している。夜勤、日勤の様子を記録より得て、気づきや工夫への取り組みを随時話し合い、実践している。	○	ポイントを押さえた個別記録の書き方を学ぶ
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外出、外泊、通院支援、家族の状況、要望に応じている。入所前に利用していた法人施設へ、面会や必要に応じて入浴支援をしていただいた。	○	法人の持つ機能を活かして柔軟な支援を考えていく
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防署では救急救命法の講習を受け、小学校の音楽祭に招待を受けた。民生委員の見学研修その他の研修の受け入れをしている。子供会で子供たち、父兄がモグラうちに昨年から来てくれている。	○	消防訓練の実施、小学校や幼稚園の子供たちとのふれあいの場を持つ
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の暮らしを支えるために、他事業所より機械浴での入浴支援や食事に関しての工夫、意見を得て支援している。	○	介護タクシー、理容ボランティアなど情報を得る
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	権利擁護事業を利用されている方があり情報を得ている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医の往診を受けている。通院検査時は付き添い、情報提供している。検査データをいただいている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	理事長が母体施設の嘱託医であり、認知症に関して、気軽に相談でき、診断治療を受けている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員が常勤しており、バイタルテックを始めスタッフ間で情報持ちより健康管理している。、医療機関への相談も、協力医は母体施設のとの関係も深く、気軽に相談している。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時から退院時まで、家族、医療機関との連絡を密にし、早期に退院できるようにしている。医師の説明は出来る限り一緒に聞くようにしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期について契約時に家族利用者に説明している。折にふれ伺えた終末時の希望は記録に残している。重度化した場合については、早い段階から繰り返し相談し、母体施設の、協力を得ながら体制を整える用意がある。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化した場合や終末時については、グループホームでの看取りの経験はないが、かかりつけ医は法人の理事であり嘱託医でもある事から、チームとして、医、介護の連携をとりできる事を見極め、相談しながら、状態の変化に対応していく。	○	看取りの経験のないスタッフが多く、法人園内研修として又部署研修として看取りの研修をつづけていく
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	医療機関以外の住み替え事例は無いが必ず同伴し。口頭でまた情報提供書を提出している。面会時にも、情報交換している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとり尊厳を守りプライバシーに配慮した声かけを接遇委員会でも取り上げ、意識向上を図っている。個人情報保護法の基本姿勢を事務所に掲示し、プライバシーの保護の徹底に努めている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の思いや希望を第一に考え表出できる場を持っている。スタッフ間で本人の思いを中心にした話し合いをし、思いに沿った暮らしの支援に努めている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間、就寝時間の決まりはなくそのときの利用者の希望に添っている。食事時間、入浴など個々のペースに添った生活を支援している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	衣類の購入は本人に選んでもらえるように、買い物に同伴している。いきつけの美容室を利用されている。身だしなみやおしゃれに感心を持っていただけるように、朝の洗顔時、鏡を見てもらい、一緒に身なりを整えている。	○ 美容室へ家族と行かれているが、今後の利用が難しくなりつつある。勤務人員状況や家族と相談しながら送迎支援をしていく。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食材買い物同伴してもらったり、食事作り、かたづけを出来る力に合わせて、一緒にしている。行事食を通じて話題が広がり、誕生日には、本人の好みのものを準備している。自分で食べれるように、自助具や茶碗の工夫、食形態の工夫をしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	朝の牛乳、パン食、夕食時や寝る前の晩酌など一人ひとりの状況に合わせて、楽しんでもらっている。毎日の買い物の際に、希望はないか聞き購入している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄の失敗が減らせるように、本人の排泄パターンや行動を合わせ見てトイレでの排泄につなげている。ハイクロソフトでの洗浄やウォッシュレット洗浄している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の状態を見ながら、本人のペースで入浴を楽しめるようにしている。入浴時混乱される方は情報を共有しながら本人の気持ちに添えるように支援している。		湯船につかる事が困難な方に関しては、法人他事業所での機械浴を利用した。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの夜間の睡眠の状態を報告し日中の休息を妨げないようにしている。就寝前は談話や飲み物を取り穏かに休めるように配慮している。	○	自室でくつろがれるより、ホールでくつろがれる方が増えてきた。利用者間での会話に意思疎通が取れず、ストレスになられる方もある。ホール外の休息の場を活用する。散歩や買い物の機会を増やしていく。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	エレクトーンの伴奏で歌ったり、本の読み聞かせを利用者交代でして下さっている。洗濯物たたみはすすんでされている。出来るところで手伝う気持ちをありがたく受け止めお礼を言っている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お祭りや買い物時にパーマ時など必要なお金を手渡ししている。金庫に保管してあるお金はいつでも使える事を話している。お金がない不安の方には都度スタッフや関係者で説明している。	○	自分のお金を使う楽しみを持たれない。又つかう機会が少ない。外食や衣料品店、ジャスコ、ニコンコ堂などにゆっくり出かける機会を増やす。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者からの希望はほとんどない。買い物ついでにドライブしたり、スタッフの用事に同伴してもらい外部との交流を持っていただいている。花見や音楽会、お宮参り、毎日の食材購入で戸外に出ている。	○	日常的な外出は食材の購入に行くことであるが、行ける利用者は決まってきた。重度の方の外出の機会を作る工夫がいる。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ふるさと巡りとして、利用者一人ひとりのゆかりの場所を巡った。お弁当を持っての花見や、イチゴ狩り、音楽会、運動会に出かけた。	○	行きたい場所は本人から聞く事がないが美味しいものを食べに行きたいという希望の方がいる。外食の機会を作る。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自室で話ができるように、子機を渡している。プレゼントが届いた時は必ず、電話される機会を作っている。年賀状や暑中見舞いが出せるように支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも訪問できゆっくりと過ごされるように、場所の提供と配茶する、談話に加わり日頃の様子を話しする。エレクトーン伴奏の出来る利用者の友人、娘さんは訪問時に唄を歌われ和んでいかれる。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を事務所に掲示し理解している。法人の研修や身体拘束廃止委員会で身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	○	身体拘束をしないケアの理解を全職員で深めていく。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の出入りは鍵がかかっておらず、自由に行き来されている。一人でジャバラ外道路に出られる事はないが、園周囲での行動も安全に配慮しながら、本人の意に沿えるように行動を共にしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	ホールには常にスタッフがあり、構造的にも見守りしやすい。料理や記録、レク、談話の中、利用者の所在や様子を把握している。居室に居られる方はプライバシーに配慮しながら、訪問や見守りをしている。	○	足元の不安定な方が増えており、夜間の行動の見守りを強化するスタッフ間で情報交換し、家族と相談しながら工夫していく。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	植木バサミは保管の場所を本人に伝えて了解の下物品庫に保管している。危険となるものの管理は鍵をかけている。異食の危険がある方に関しては行動の見守りと環境の整理をしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止委員会の活動の中で、事故防止の知識やヒヤリハット事例の検討をしている。一人ひとりの状態に応じた予防策を日常的によく話し合っている。、事故になりやすいところは、早い段階で工夫をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の救急法をブロック会で取り上げ、実技研修した。急変時や携帯酸素、携帯吸引器を準備、事故発生時のマニュアルを整備している。経験者や看護師より随時日常の場面で学んでいる。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急連絡簿を作成している。災害時の水、食料、に関しては、法人施設で備えている。月一回の避難訓練をしている。近隣に本体施設、医院があり、協力を得られる。	○	市よりの災害マップや消防署の地震対策を掲示しているが、各有事に関しての対策、避難の方法を、学ぶ機会を持つ。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会時に生活の様子を話す中で起こりうるリスクやその対応を説明している。家族の納得、理解が得られるように、普段より対話を大切にしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一人ひとりの体調変化は個人記録に記入、口頭で伝え合い、看護師と連絡を取り、早期に医療機関へつなげている。	○	スタッフ一人ひとりがお互いの気付きを大切にしている。健康チェック表の備考欄を工夫して活用する
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容は個人ファイルに綴じてあり、いつでも見れる。看護師は適宜、利用者や職員に服薬の目的を伝え、症状変化への観察に努めている。		自分で飲まれる方、服薬拒否の方や、内服困難な方もある。それぞれに応じての服薬支援をしている。多剤内服の方に対しては家族に説明、医療機関相談の基、減量してもらった。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄委員を中心に情報を得て対応している。自然排便を促すために、朝食前の牛乳やおやつ工夫、水分摂取を中心に、一人ひとりにあった、排泄支援をしている。健康チェック表の排泄欄を利用し、医師の指示の基、対応している。	○	排泄が日常の行動に大きく影響する事を職員は知っている。一人ひとりに合ったケアの工夫をする
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	一人ひとりの力に応じて毎食後の歯磨き、義歯洗浄うがいを支援している。拒否される方について、歯ブラシや薬用歯磨きの検討、ケアの工夫をしながら、清潔保持につなげている。	○	口腔ケアの重要性を知っているが、重度化した時を含めた具体的なケアについての知識を深める。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人施設の栄養士の献立内容をつくっている。摂取量に問題のある方は健康チェック表の食事欄に記入し把握している。食事の形態を工夫したり、食器、自助具の工夫、姿勢保持の工夫などしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対してのマニュアルがある。感染症予防に関する意識は高く、日頃より話題として対応している。感染対策委員会の情報もある。インフルエンザに関しては、利用者、スタッフ共に予防接種を受けている。ハイクロソフト水による洗浄や清拭をしている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具食器は、乾燥機で、まな板、手拭、台拭きはハイクロソフト水で消毒している。食材は、肉魚に関しては、当日専門店から購入している。野菜他は毎日当日分を買出し、冷蔵庫内の整理を定期的に行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物周囲はプランターを置いたり、花を植えている。玄関は観葉植物をおいて、自然で穏やかな雰囲気になっている。	○	垣根越しに話しができる関係を大切にしていこう。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下の一輪挿しには季節の花をさしたり、利用者の作品を飾っている。歌集や、本がいつでも手の届くところにある。食事の時間には、静かな音楽を流している。ホールから、ウッドデッキから外の木々が眺められる。	○	ホールで過ごされる方がほとんどで、ソファが手狭になってきた。重度の利用者の言動に不快感を持たれることもあり、テーブル、テレビ前と居心地の良い場所づくりを更に検討する。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分のテーブルの席が一番落ち着かれる方、ソファの場所、テレビ前のコタツとそれぞれ自分の場所をもたれている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人家族と相談しながら、鏡台、たんすなど馴染みのものを、持ってきてもらっている。本人の作品や写真を飾ったり一厘花や花鉢を置いて楽しんでもらっている。ソファを購入され面会時にゆっくりくつろいでいかれる家族もある。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	起床後ホールに来られるときに必ず換気をしている。場所により、発汗や咳との関係もある事をスタッフは知りこまめに調節している。温度差の大きいトイレにカーテンを試みた。居室のエアコンは本人に合わせて調節している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで廊下は手すりが随所についている。洗面所は高さを違えて使用しやすい。身体機能の低下に伴い、浴室に手すりをつけた		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレドアの赤テープ、居室の入り口の表示、時計の下の日課表、テーブルの印など本人の不安を聞きながら環境づくりをしている		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	自室外に自分の植木を置き楽しませられている。ウッドデッキより外に出て、洗濯物を干したり、布団を干したり、又椅子を置いてウッドデッキから通りを眺め楽しませられている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
		<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
		<input type="radio"/>	③たまにある
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/>	②家族の2/3くらいと
		<input type="radio"/>	③家族の1/3くらいと
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
		○	②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

一人ひとりが不安を抱え困らないように、居室や共同のホール、廊下ソファなどで寄り添い談話しています。一人ひとりの暮らしを大切にしながら持てる力を見極め、日常の中で発揮できるように場を作っています。近隣に学校、幼稚園、神社、官公丁、駅、スーパー、郵便局などあり、気軽に出かけられ、文化行事にも参加できます。医療連携体制を含め、母体施設と協働しながら、スタッフは研修を重ね、安心、安全にむけて生活に工夫をしています。



